

西大芦漁協管内で冷水病回復後のアユの生息数を調査しました！

2024. 8. 16 栃木県水産試験場

西大芦漁協管内では、近年、冷水病による被害が大きいことが課題となっていました。

そこで、昨シーズンから冷水病に強いことが期待される七色系種苗の放流割合を増やしています (R4年：0% ⇒ R5年：47% ⇒ R6年：55%)。

その結果、解禁から約3週間が経過した7月20日頃から冷水病の発生が見られましたが、10日間ほどで回復しました。

そこで、8月2日に潜水目視によって調査^(※1)したところ、アユの生息数は約4万尾と推定され、解禁前の生息数に対する残存率は39%と過去10年間で最も高い値となりました。

流行している冷水病に強い種苗を放流することは、冷水病被害を軽減するために有効と考えられます。

※1 調査方法の詳細はこちら (<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010910859>)

表1 西大芦漁協での放流アユの生息数

調査年	アユの生息数 (尾)		残存率 (B/A)
	解禁前 (A)	冷水病回復後 (B)	
2015	150,000	25,500	17%
2016	118,000	34,000	29%
2017	124,700	29,300	23%
2018	143,300	29,200	20%
2019	81,000	19,100	24%
2020	100,600	16,000	16%
2021	74,300	16,700	22%
2022	70,200	14,800	21%
2023	87,600	30,200	34%
2024	100,800	39,200	39%

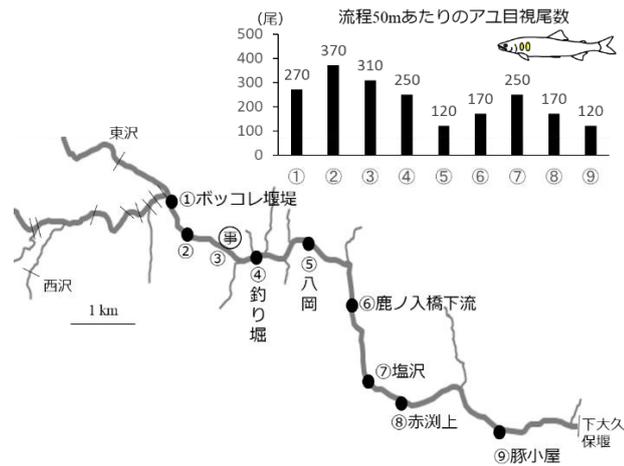


図1 調査地点とアユ目視尾数 (2024.8.2)